

EBM を用いた診療ガイドラインは歯科医師の自由裁量を拘束するかの問いに対し、そう思うと回答した者は 16 % であり、医師の先行研究の「大いに思う・思う」(10 %) より高い結果となった。EBM を用いた診療ガイドラインについての知識の信頼性が低く、絶対的な数値も低いものの、一般開業歯科医の懸念材料を明確化し、診療ガイドライン作成のための環境整備の際に適切に対応すべきと思われる。

EBM を用いた診療ガイドラインの情報を自分のパソコンで得ることができるシステムに対する対価の最頻値は無料であり、医師の「年間 1 万～2 万円」と開きがあった。もちろん、得られる情報によってこの対価は変わるであろうが、数字だけを見る限り、一般開業歯科医は EBM を用いた診療ガイドラインに対し、プライマリケア医ほどの価値を現時点では見いだしていないことがうかがわれた。

具体的にどのような「EBM を用いた診療ガイドライン」が必要だと思うかという問いに対し、「具体的」な回答はほとんど得られず、表 2 に示した代表的な分野程度の情報しか得られなかった。今後、改めて別の方法により clinical question の収集が必要と考えられる。

E. 結論

歯科分野における診療ガイドライン作成を構築するための基盤整備の一環として、現状における一般開業歯科医の診療ガイドラインに関する認知度及び必要性についてアンケート調査を行った。EBM に対する認知度は医師よりも低いものの、好意的に認知されている傾向がうかがわれた。また、EBM を用いた診療ガイドラインの認知度についても同様に低いものの、診療ガイドラインにも好意的に期待が寄せられている傾向がうかがわれた。一方、診療ガイドラインにより自由裁量を拘束するとの意識が医師よりも高く、今後、普及啓蒙と診療ガイドライン作成のための clinical question の抽出が課題と考えられた。

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

参考文献

- 1) 平成 13 年度厚生科学研究費補助金 21 世紀型医療開拓推進研究事業「EBM を指向した「診療ガイドライン」と医学データベースに利用される「構造化抄録」作成の方法論の開発とそれらの受容性に関する研究」(主任研究者 中山健夫)
- 2) 平成 16 年 医師・歯科医師・薬剤師調査
厚生労働大臣官房統計情報部編 財団法人厚生統計協会
- 3) 平成 16 年 医療施設調査(動態調査)・病院報告(都道府県編) 厚生労働大臣官房統計情報部編 細断法人厚生統計協会

表1 年齢構成

| | |
|---------|------|
| ① 20代 | 4 |
| ② 30代 | 189 |
| ③ 40代 | 618 |
| ④ 50代 | 661 |
| ⑤ 60代 | 248 |
| ⑥ 70代以上 | 23 |
| 未回答 | 3 |
| 有効回答数 | 1743 |

表2 具体的にどのような「EBMを用いた診療ガイドライン」が必要だと思うか

| | |
|----------|----|
| 歯周病 | 51 |
| 歯内療法 | 22 |
| 抜歯 | 19 |
| 補綴 | 18 |
| 顎関節症 | 17 |
| う蝕 | 11 |
| 予防歯科 | 11 |
| インプラント | 8 |
| 矯正 | 5 |
| 咬合 | 3 |
| 咀嚼・摂食・嚥下 | 3 |
| 小児歯科 | 3 |
| 睡眠時無呼吸症 | 1 |

表3 EBMの認知度と診療ガイドラインの認知度のクロス集計

| | | いわゆる「従来型の診療ガイドライン（保険診療におけるガイドラインを含む）」と、「EBMを用いた診療ガイドライン」の相違について知っているか | | | |
|-------------------------|------------|---|------------|------------|-------|
| | | 相違をよく知っている | 相違を少し知っている | 聞いたことがある程度 | 知らない |
| 知っているか EBMのことを知っているか | 内容をよく知っている | 9.3% | 22.2% | 29.3% | 39.2% |
| | 内容を少し知っている | 1.7% | 15.8% | 30.2% | 52.2% |
| | 聞いたことがある程度 | 1.4% | 1.4% | 28.4% | 68.7% |
| | 聞いたことがない | 2.1% | 0.0% | 2.1% | 95.9% |

表4 回転後の因子行列 (a)

| | 因子 | | | |
|-------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 設問①-3 | 0.960 | 0.166 | 0.190 | 0.064 |
| 設問①-2 | 0.959 | 0.173 | 0.186 | 0.07 |
| 設問①-4 | 0.950 | 0.157 | 0.192 | 0.057 |
| 設問① | 0.717 | 0.148 | 0.175 | 0.157 |
| 設問①-1 | 0.237 | 0.049 | 0.021 | 0.087 |
| 設問④-2 | 0.161 | 0.973 | 0.058 | 0.086 |
| 設問④-1 | 0.162 | 0.973 | 0.053 | 0.093 |
| 設問④-3 | 0.207 | 0.920 | 0.115 | 0.133 |
| 設問④ | 0.166 | 0.646 | 0.135 | 0.359 |
| 設問⑥ | 0.244 | 0.113 | 0.914 | 0.109 |
| 設問⑦ | 0.144 | 0.079 | 0.895 | 0.122 |
| 設問⑤ | 0.183 | 0.080 | 0.813 | 0.138 |
| 設問③ | 0.242 | 0.333 | 0.170 | 0.679 |
| 設問② | 0.075 | 0.069 | 0.095 | 0.496 |

因子抽出法：主因子法

回転法：Kaiser の正規化を伴うバリマックス法 (5 回の反復で回転が収束した。)

表5 第1因子

n = 909 Scale coefficient H = 0.58 Scale Z = 33.20

reliability 0.81

Item coefficients

| Item | Label | Mean | ItemH | Z |
|-------|-------------------------|------|-------|-------|
| Item1 | q1 do you know | 1.66 | 0.36 | 13.26 |
| Item2 | q1-2 do you wish to use | 2.02 | 0.65 | 27.40 |
| Item3 | q1-3 chage to better | 2.15 | 0.65 | 27.68 |
| Item4 | q1-4 depreciation | 2.37 | 0.57 | 23.69 |

全ての ItemH は 0.3 以上でこれらはひとまとめとして使うことができると判定した。

表6 第2因子

n = 536 Scale coefficient H = 0.44 Scale Z = 21.62

reliability 0.73

Item coefficients

| Item | Label | Mean | ItemH | Z |
|-------|--------------------|------|-------|-------|
| Item6 | q4 read | 2.21 | 0.33 | 10.99 |
| Item7 | q4-1 use it | 2.60 | 0.52 | 18.51 |
| Item8 | q4-2 useful | 2.66 | 0.50 | 17.66 |
| Item9 | q4-3 wish to exist | 2.77 | 0.37 | 13.40 |

全ての ItemH は 0.3 以上でこれらはひとまとめとして使うことができると判定したが、q 4 と q 4 - 3 の 2 つが低い値であった。

表7 第3因子

n = 1533 Scale coefficient H = 0.47 Scale Z = 26.35

reliability 0.68

Item coefficients

| Item | Label | Mean | ItemH | Z |
|--------|---------------|------|-------|-------|
| Item11 | q6 support | 2.70 | 0.51 | 23.16 |
| Item10 | q5 discretion | 2.88 | 0.50 | 23.91 |
| Item12 | q7 insurance | 3.05 | 0.38 | 17.22 |

全ての ItemH は 0.3 以上でこれらはひとまとめとして使うことができると判定した。

図1 大学卒業年の分布

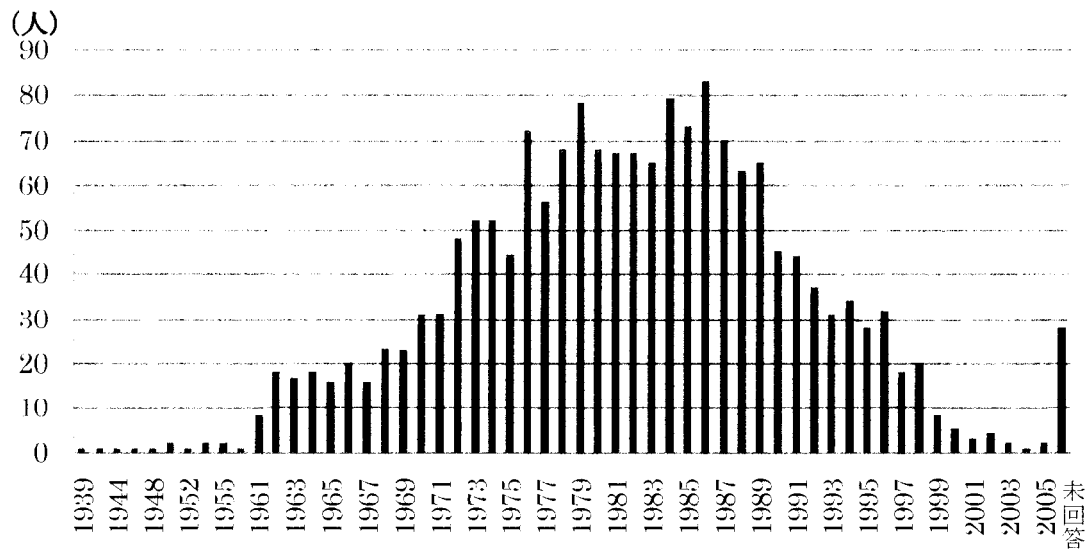


図2 勤務先

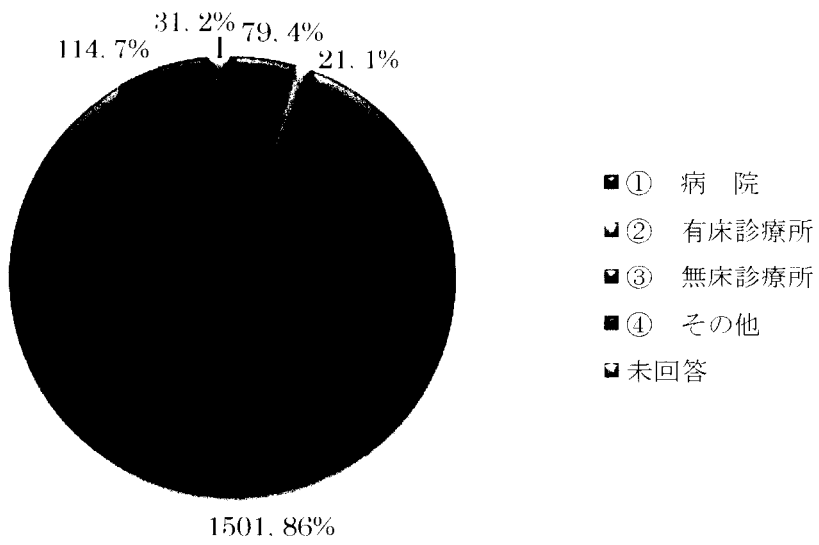


図3 勤務先の所在地の分布

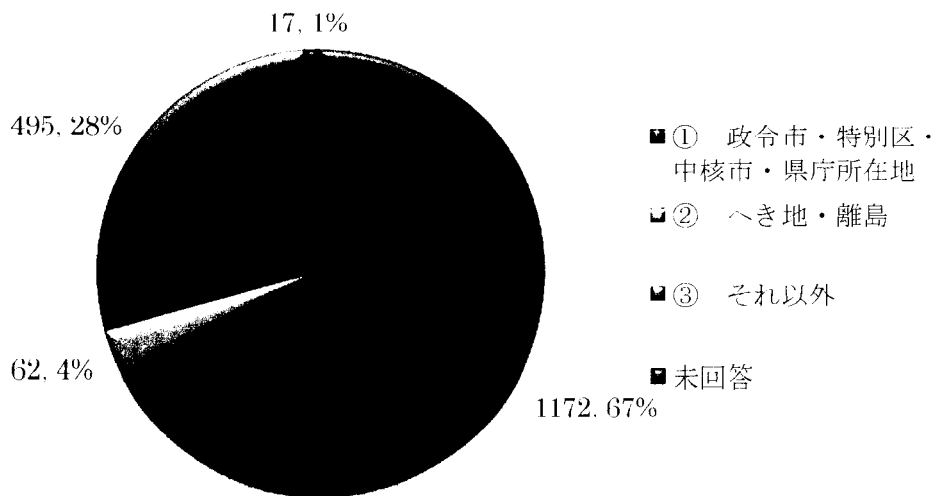


図4 診療領域

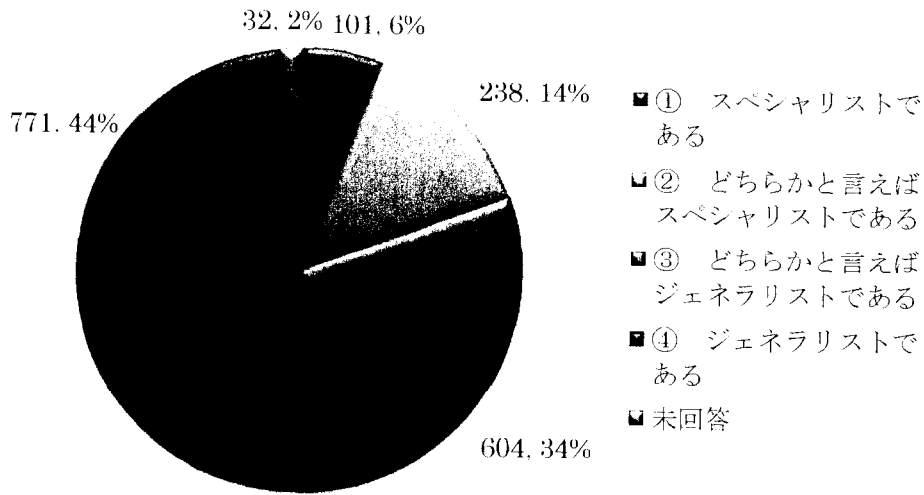


図5 EBMのことを知っているか

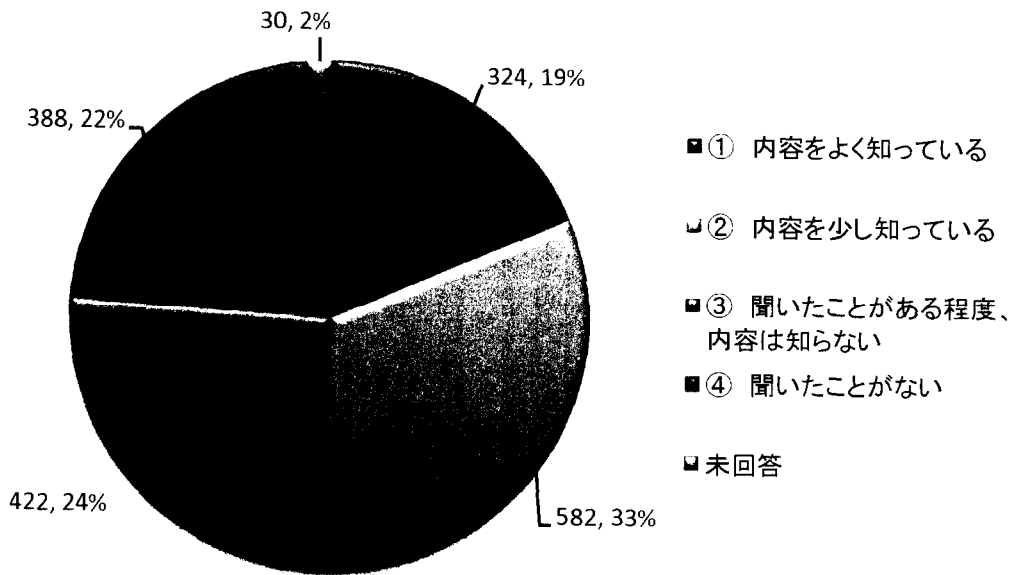


図6 EBMをどこで知ったか（複数回答可）

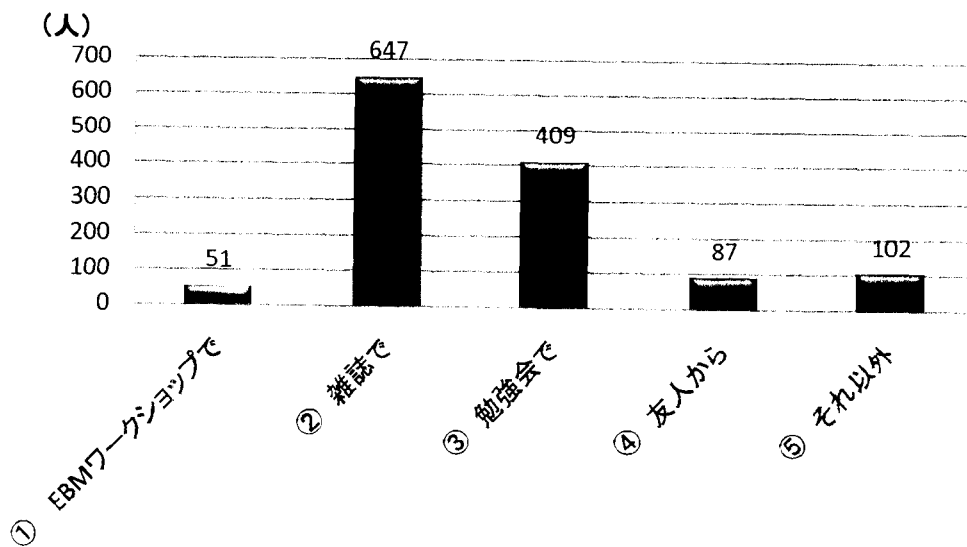


図7 EBMを自分の診療に取り入れたいと思うか

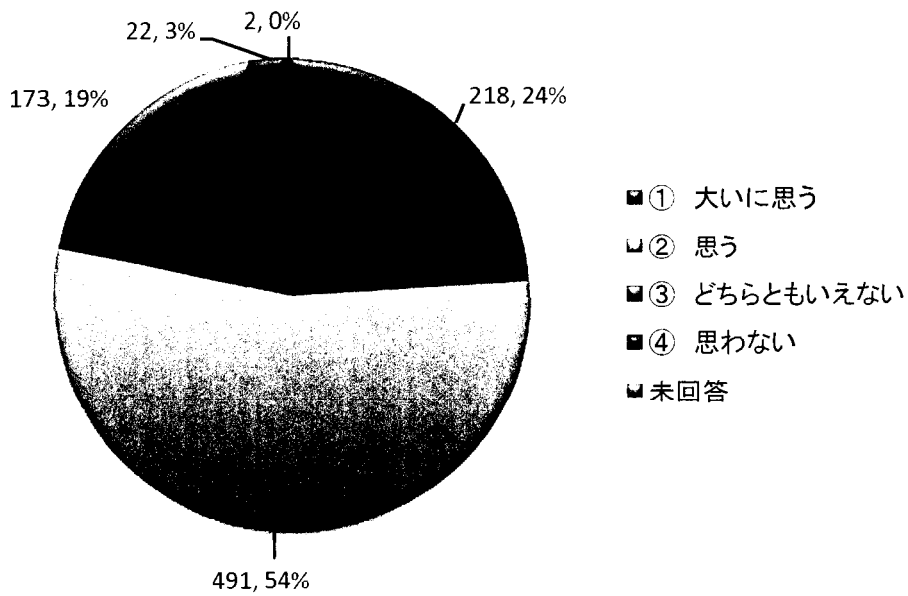


図8 EBMにより医療の質はよくなると思うか

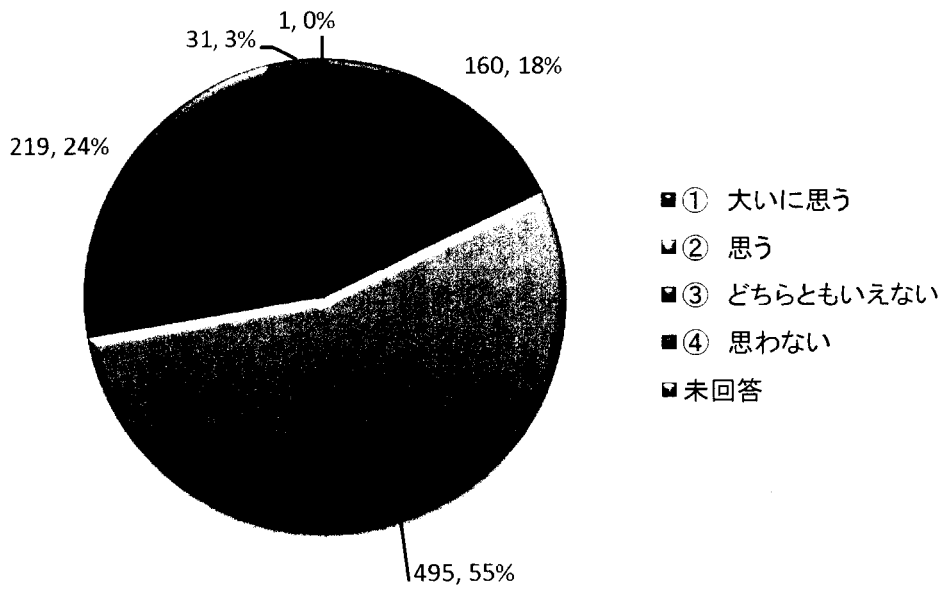


図9 EBMはこの患者の軽視につながりかねないと思うか

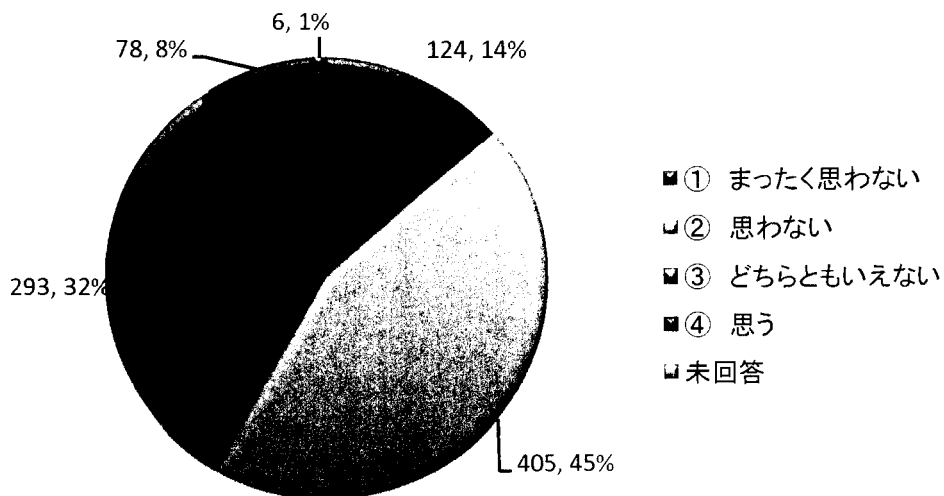


図10 Minds（医療技術評価総合研究医療情報サービス事業）を知っているか

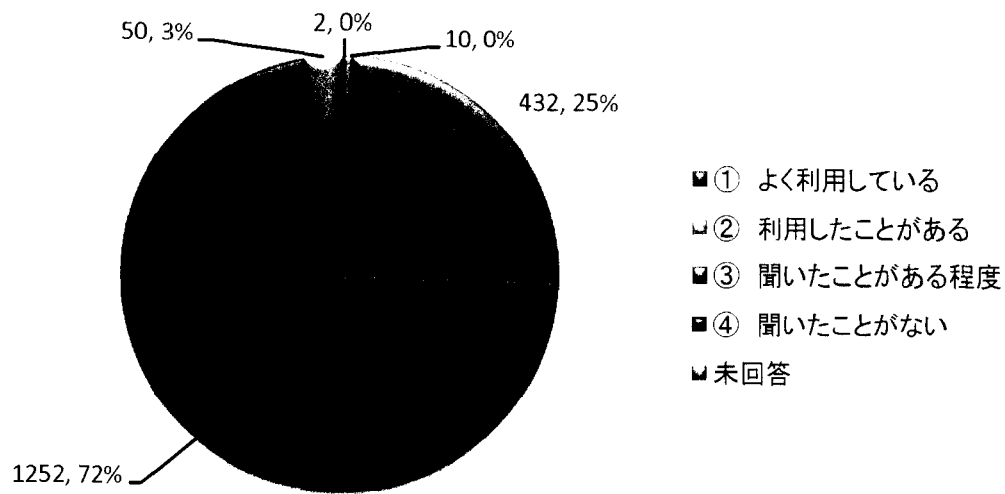


図11 いわゆる「従来型の診療ガイドライン（保険診療におけるガイドラインを含む）」と、「EBMを用いた診療ガイドライン」の相違について知っているか

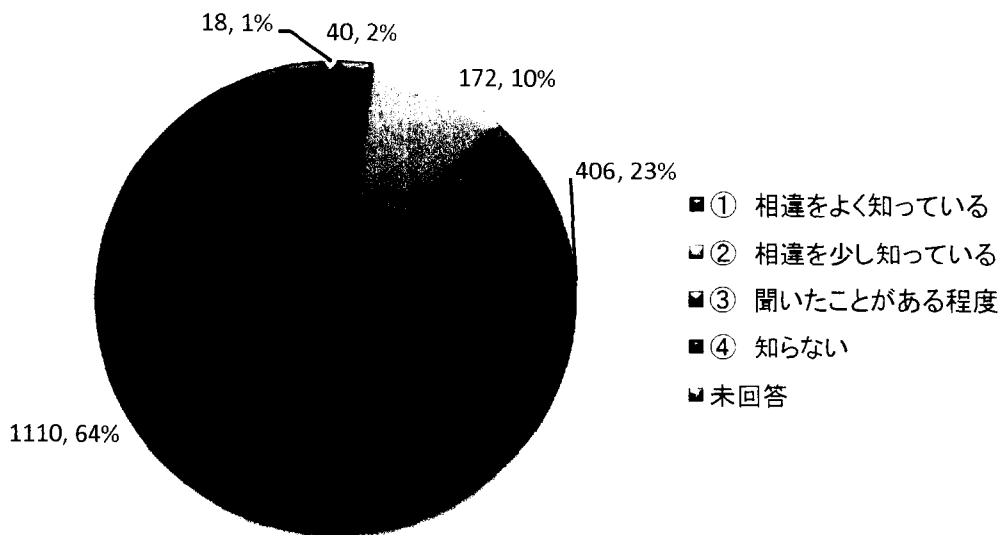


図12 歯科領域の診療ガイドラインを読んだことがあるか

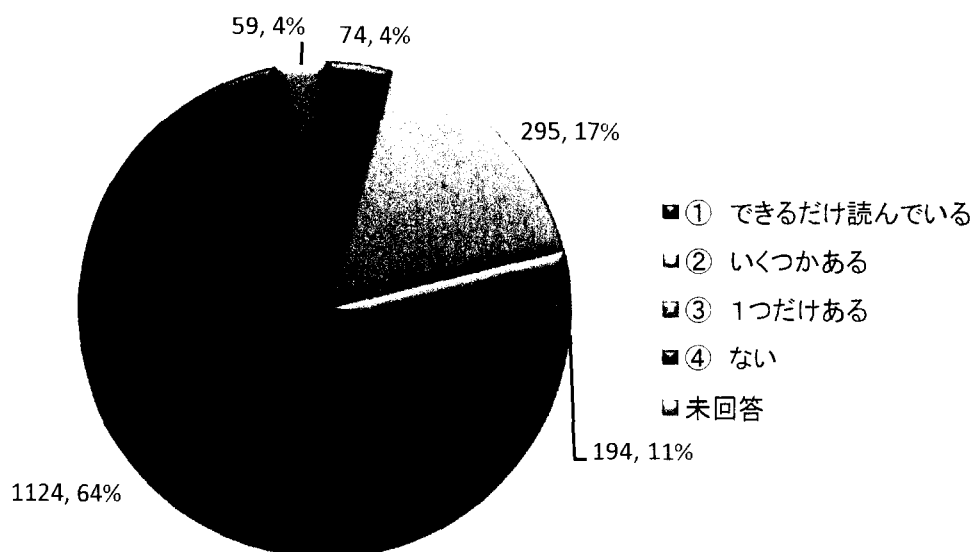


図 1 3 日常診療で診療ガイドラインを使っているか

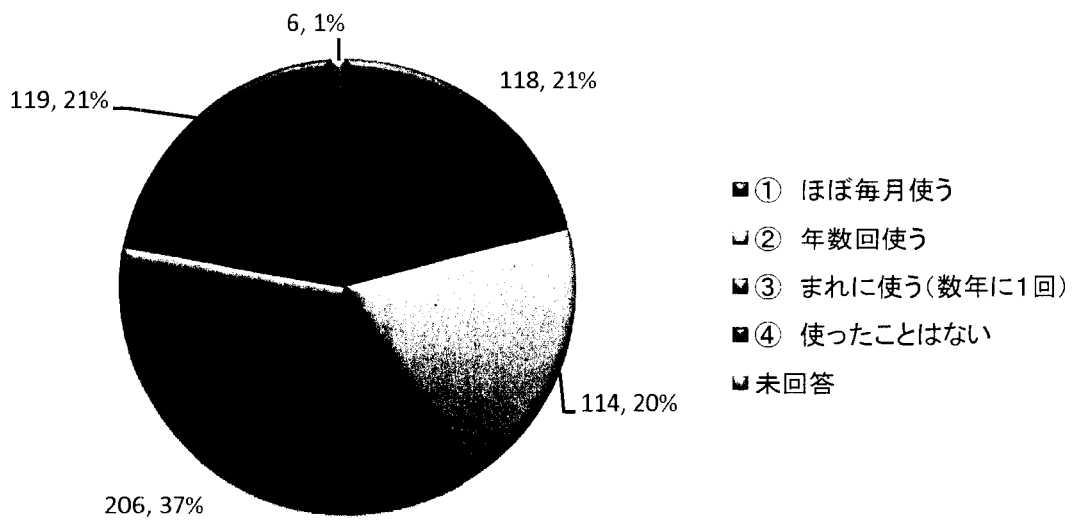


図 1 4 診療ガイドラインは日常診療に役立つか

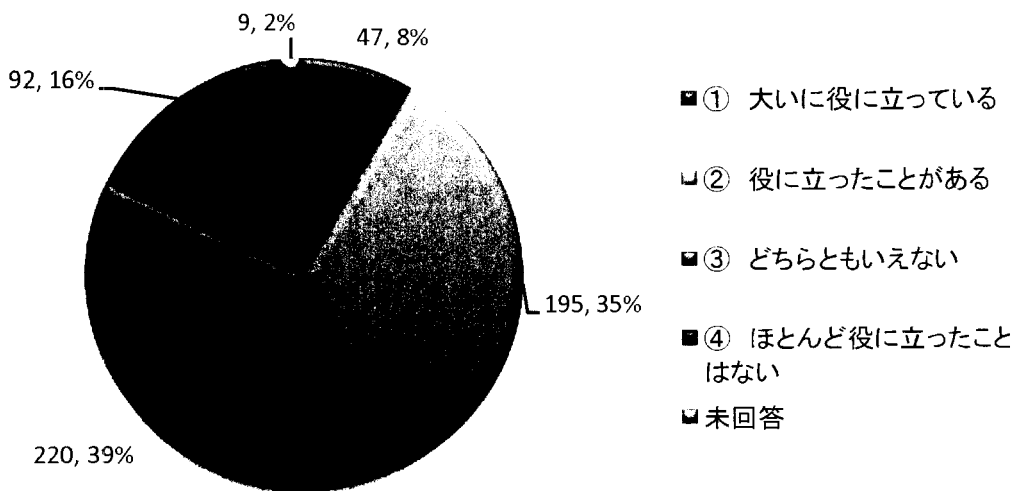


図 1 5 日常診療の際、「このテーマの EBM を用いた診療ガイドラインがあれば」と思うことがあるか

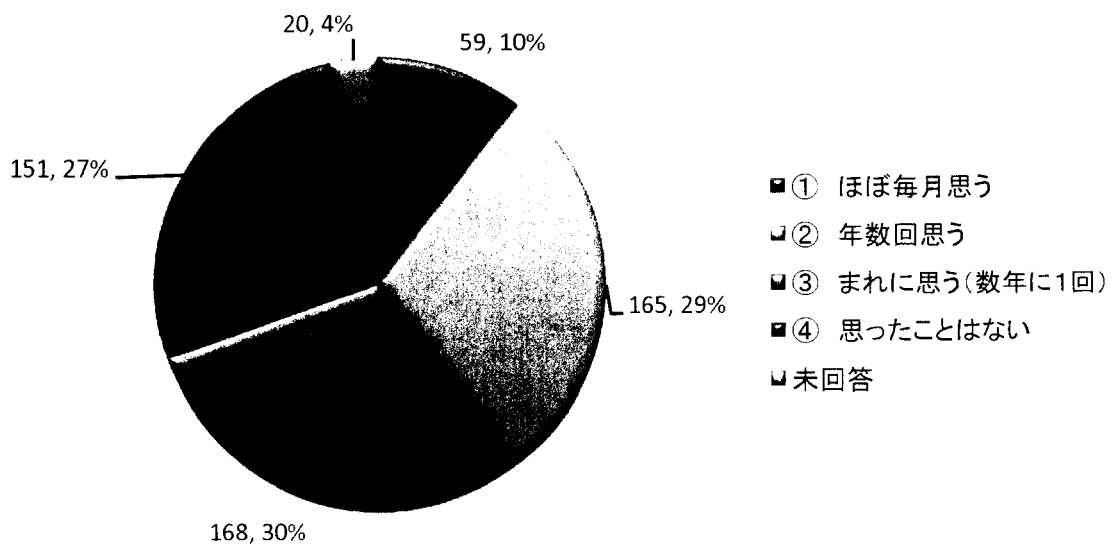


図 1 6 「EBM を用いた診療ガイドラインは歯科医師の自由裁量を拘束する」と思うか

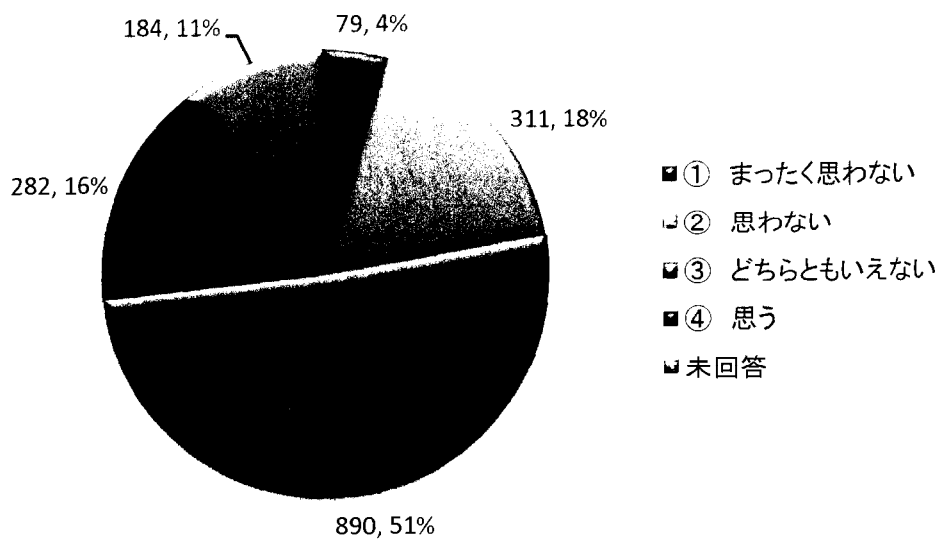


図 1 7 「EBM を用いた診療ガイドラインは現場の判断を支援する」と思うか

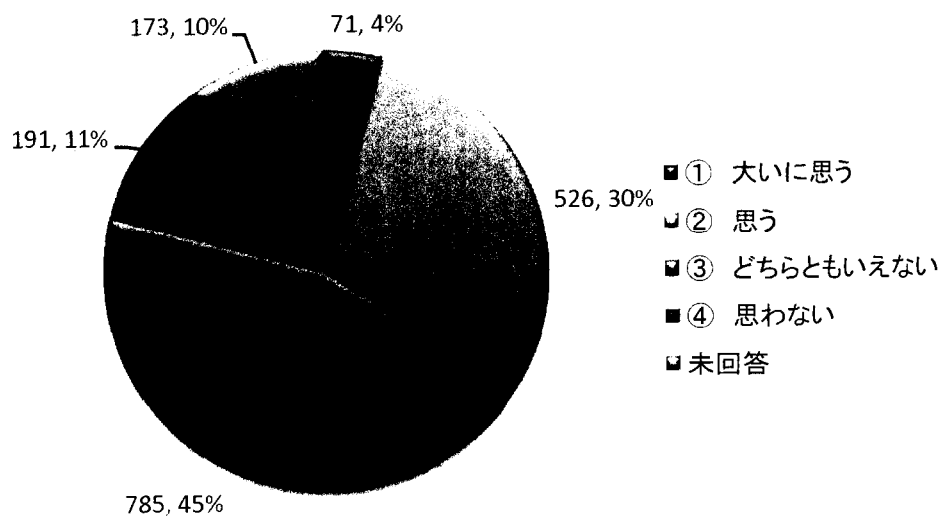


図 1 8 「EBM を用いた診療ガイドラインは保険診療を制限しない」と思うか

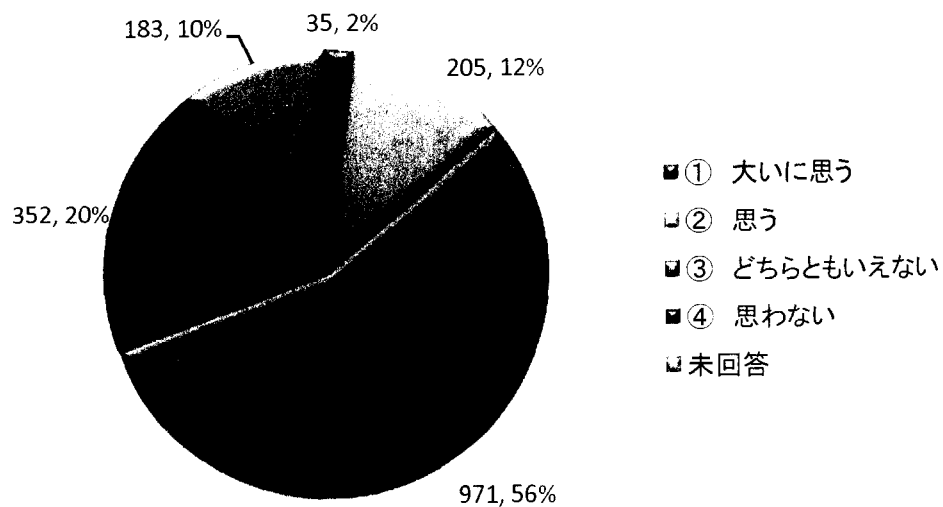


図 1 9 EBM を用いた診療ガイドラインの作成には、有識者の参画が必要だと思うか

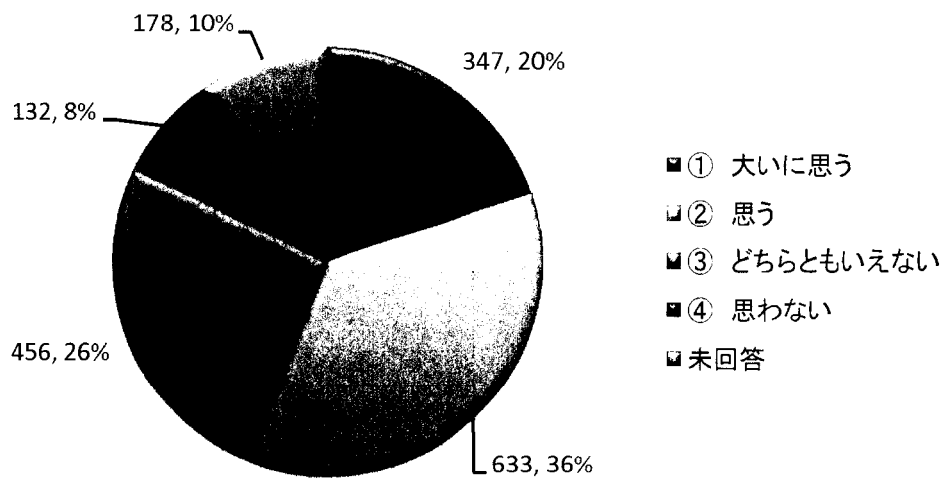


図 2 0 EBM を用いた診療ガイドラインの作成には、公聴会が必要だと思うか

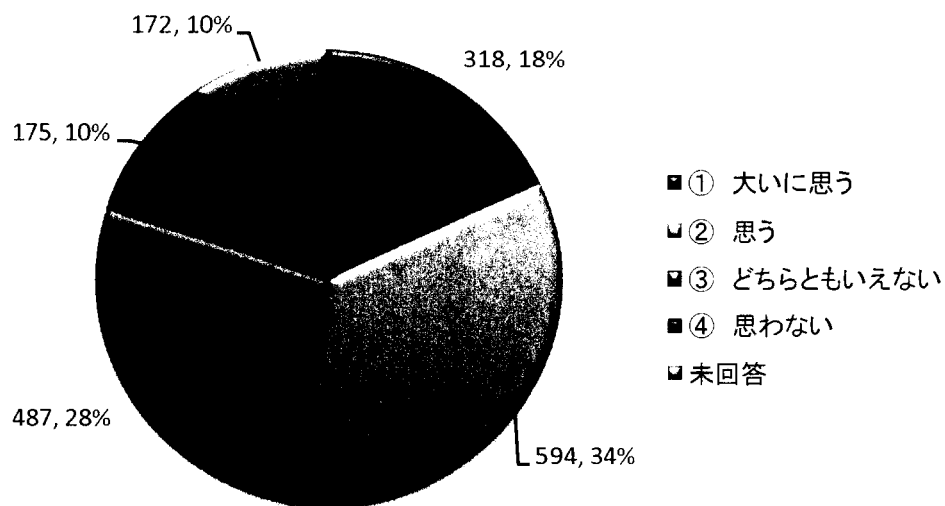


図 2 1 EBM を用いた診療ガイドラインの作成には、患者（患者団体）の参画が必要だと思うか

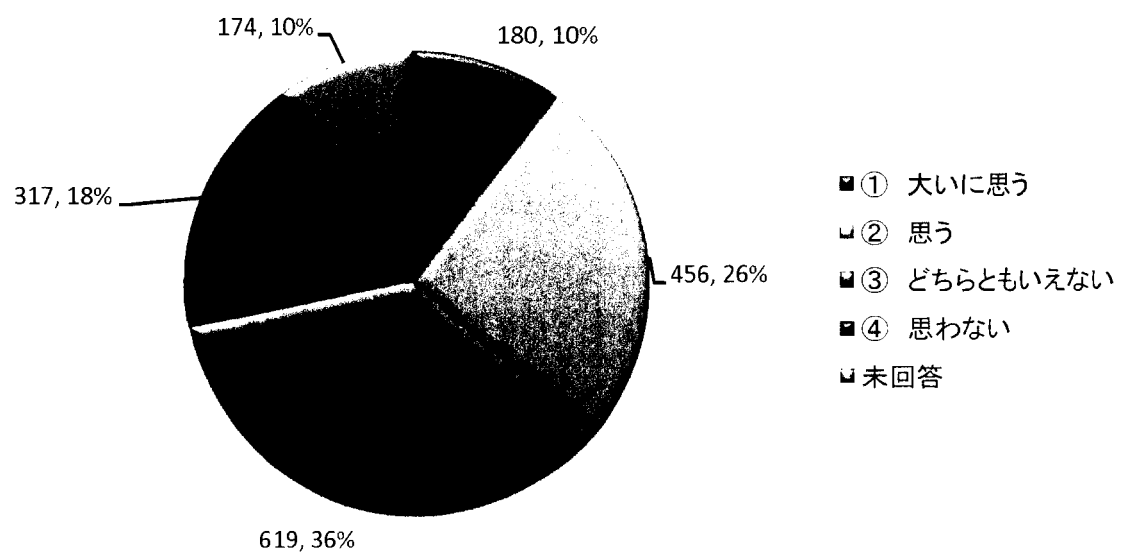


図 2 2 EBM を用いた診療ガイドラインの情報は、何年ごとに再評価されるのがいいと思うか

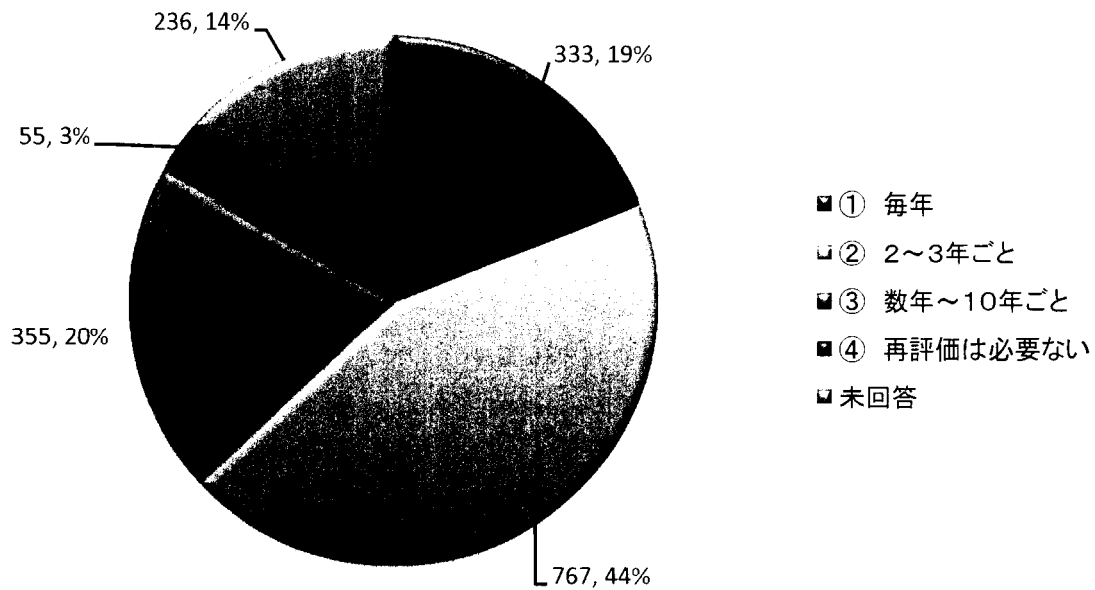


図 2 3 EBM を用いた診療ガイドラインはどこが（誰が）作るのがよいと思うか

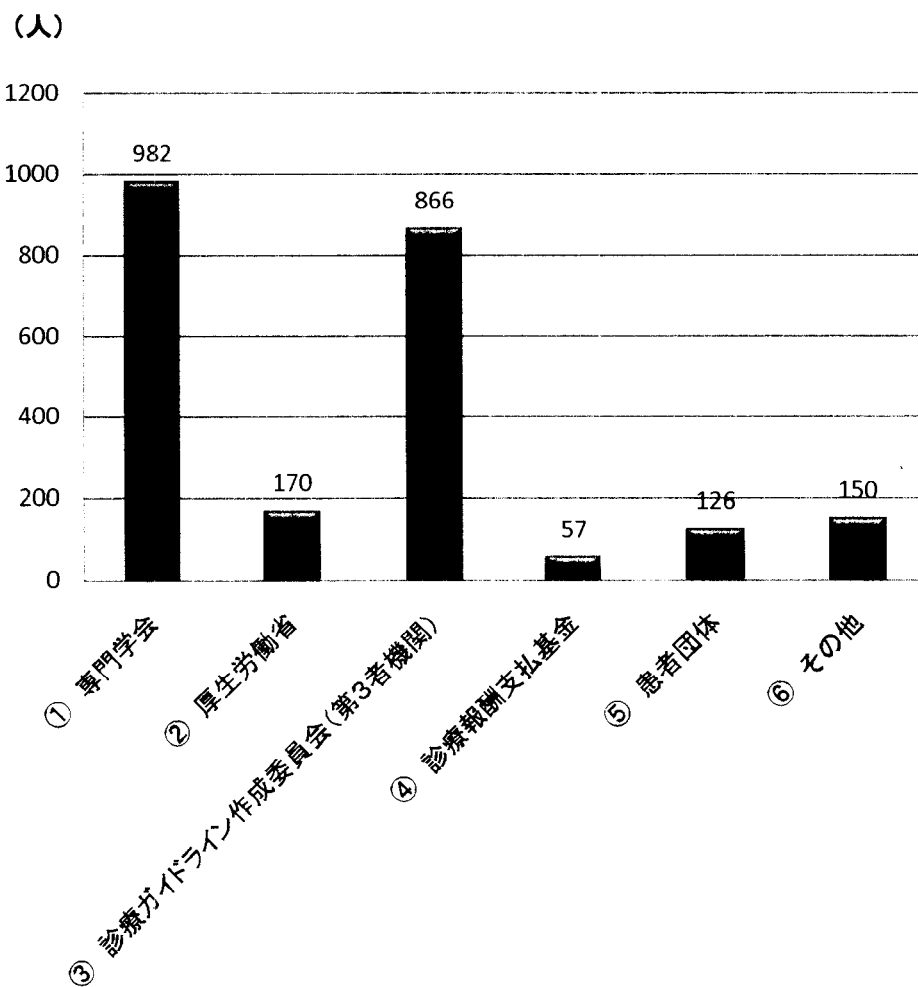


図2-4 診療の大半をカバーできる EBM を用いた診療ガイドラインの情報が、自分のパソコン端末で短時間で調べられるようになるとしたら、その情報システムに年間で最大いくらくらい支払う価値があると思うか

